

中学校教育 70 年記念式典 式辞

日時 平成 29 年 10 月 19 日(木) 午前 10 時

記念式典

場所 東京国際フォーラム

本日、ここに、皇太子同妃両殿下のご台臨を仰ぎ、参議院議長 伊達忠一(だてちゅういち)様、文部科学大臣 林 芳正(はやし よしまさ)様、全国都道府県教育委員会連合会会長 中井 敬三(なかい けいそう)様をはじめ、多数のご来賓の皆様のご臨席をいただき、中学校教育 70 年記念式典を挙行できますことは、この上ない喜びでございます。

「すべて国民は法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。」と明記された日本国憲法が昭和 21 年に公布され、昭和 22 年 4 月の学校教育法の施行により、新制中学校が発足いたしました。発足当時は、小学校の校舎を間借りするなど、様々な条件が整備されていない状況でしたが、先輩の皆様方や関係の皆様方のご努力により、新しい制度の中学校教育の充実が図られてまいりました。以来 70 年、中学校教育は、国民の教育水準の向上に大きな役割を果たしてまいりました。日本の戦後におけるめざましい復興と、奇跡とも呼ばれる高度経済成長に関して、新しい学校教育が果たした役割は非常に大きいものがあります。そして現在では、我が国の中学校の教育水準は、世界でもトップレベルに位置するまでになっています。この、中学校教育 70 年という節目の年を期に、これまで中学校教育の充実に関心を注いでこられた先輩の皆様方に深く敬意を表しますとともに、その想いを引き継ぎ、今後の発展に向けて一層の努力をしていくことを、改めて深く心に刻んだところでです。

現在、日本の教育界においては、様々な教育改革が行われ、新たな制度の構築や次期学習指導要領への対応、いじめ防止対策など中学校教育は重要な局面を迎えております。資源の乏しいと言われるこの日本において、人こそが大きな資源であり、変化の予測が難しいこれからの時代にあっても、我が国が十分な存在感をもって世界をリードしていくために教育が果たす役割は、限りなく大きいものであると考えております。中学生一人一人のその後の人生において、大きな意味をもつ 10 代前半の 3 年間に関わる中等教育の前期段階である中学校教育は、その教育の質が今後の日本の在り方を大きく左右するものであると確信しております。全日本中学校長会は、会員一人一人がそのことを深く理解するとともに、職責の重さを改めて自覚し、今後も国民の信頼と期待に応えるべく、全国の会員の力を結集し、中学校教育の発展に全力を尽くすことをお約束いたします。

結びになりますが、本日の式典の挙行にあたりまして、多くのご指導、ご支援を賜りました関係の皆様方に深く感謝の意を表しまして、式辞といたします。

平成 29 年 10 月 19 日

全日本中学校長会 第 41 代会長 直田 益明